

〈第3回目〉



平面図と組み立てたものとは、印象が全然違います。実際の大きさに形を作って、イラストや色を考えていきます。

チョコキ、チョコキ…
せっせ、せっせ…



〈第4回目〉



私たちの頭の中には、パッケージの色をみただけで中身はこれという回路がインプットされているようです。

オレンジ色はジュースに見えたり、青色は牛乳のようだったり。“色”はとても大事です。

〈第5回目〉

いろいろな色で作った結果、やっぱり茶色がいいと全員の意見が一致。

絵柄はコーヒーをいれている姿に決定しました。海にいたイルカは自然の海に戻してあげました。

雲はコーヒーカップや豆の形をしています。湯気も“MOUNTAIN”しています。そうだ、サックスを吹いている人や、ギターのおじさんもいれちゃおう。うーん、気球も豆でいこう。イラストがどんどん楽しくなっていきます。



〈第6回目〉

文字選びです。
微妙に違います。
おしゃれな文字は？
わかりやすい文字は？
このイラストに合う文字は？



〈第7回目〉



雲の色は“白”がいいかな。でも目立たないね。
茶色にしようか。それじゃ焦げているみたいね。
地球の形をもう少し丸くしようかな…。
海に色をつけた方がいいかな…。
会議は真剣に、でも楽しく進みます。

〈第8回目〉

色の微調整をします。
“茶色”といってもいろいろ。ココア色になったりチョコ色になったり。微妙な違いが大きく影響します。
色を決めるのはなかなか難しい。

〈第9回目〉

ウラの文章を決めます。
成分や製造者などの表示が義務付けられています。もれのないように。
注ぎ口の後ろには、マウンテンのロゴマークもいれました。

〈第10回目〉

最終確認。
色OK、文字OK、文章も間違いなし。

〈第11回目〉

ジャン！出来上がり、完璧！



10回の打ち合わせと
38個もの試作品を作りました。
ご苦労様でした。
おかげでいいものが
出来ました。



しかし…

これで終わりではないのです。
この作品のデータが印刷屋さんまわります。
そこで、本物のパッケージの紙で見本が作られます。
ここでまた色の調整をすること3回。

やっとパッケージが完成します。

それから…

コーヒー豆を焙煎して工場に送ります。
工場にてネルドリップ抽出、充填。
マウンテンに到着。



バンザイ、オリジナルのアイスコーヒーができました。
楽しいパッケージに、おいしいアイスコーヒーが入っています。



みなさん、見に来てくださーい。